

第2期ゆめ・みらい百人会議第1回全体会議要録

1 日時

平成28年3月19日（土）9：30～12：00

2 会場

島田市役所会議棟大会議室

3 出席者

委員：27人（欠席者11人）

島田市：染谷市長

事務局：鈴木地域生活部長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課長補佐兼係長、酒匂主査

4 概要

1 開会

2 委嘱状交付

染谷市長より、出席委員全員に一人ずつ委嘱状を交付。

3 市長あいさつ

- ・自由なテーマで夢を語り合い、やれることを突き詰めていきながら、2年後に行政に対して提案をいただくということ以上に大事な目的として、初めて会う人達が、新たに活動を始めて動き出し、行政を巻き込みながら、この2年間で学ぶこと、知ること、体験することを通して、互いに切磋琢磨して人材が育成されることである。
- ・若い人たちにみなさんの経験や知識、島田というまちを伝えてもらいたい。若い方がまちづくりや行政に関心を持っていただかないと、まちは活力を維持し続けることが難しくなる。そういった願いを込めて百人会議を始めた。
- ・第1期から継続の15名の方々は、これまでやってきた2年間の土台にして、さらに百人会議に磨きをかけていただきたい。今回から新しく入るみなさんには、ぜひこの百人会議に新しい風を吹き込んで、この島田がますます活力あるまちになるようにお力をお借りしたい。

4 スタッフ紹介

5 議題

—第2期ゆめ・みらい百人会議の進め方協議—

全体会議の開催、分科会の設置、分科会からのリーダー選任、代表・副代表の互選による選任、合同会議の開催について、事務局が島田市ゆめ・みらい百人会議要綱をもとに説明。活動単位となる分科会をどのように決めるか？グルーピングの方法について協議。

協議をするにあたり、取っ掛りとなるグループ（案）のようなものを、行政からの押し付けではなくて、一つの提案として示したらどうかとの意見が委員から出たため、申し込み用紙に記入いただいた希望テーマをもとに事務局である程度グルーピングした（案）を資料として配布。

(協議事項に対する委員からの主な意見)

- 第一希望のテーマで分かれて、そこでリーダーを決めて、リーダーだけで集まって、その中から代表・副代表を選任したらどうか。
- 新しく申し込まれた方もいるので、グループの枠組みを決めてしまう前に、新しい方々がどういう思いで参加されたかを聞いたら参考になるのではないかな。
- 1期の皆様がどういう分科会に分かれて、どのような活動をして、どういう結果が表れたかを知りたい。
- 得意な分野をもとに希望するテーマを記入したが、どういう目的・内容で分科会を進めていくのかというものが分れば、また違ったテーマに興味を示すかもしれない。
- 前回の反省もあるし、人数も少ないことなので、あまり大急ぎで分科会を作らなくてもいいと思う。
- 無理やり分けなくても、こういう会を何回か開いて、今までの経験などを聞きながら進めたらどうか？分科会を5つぐらいに絞った方が良さそう。前回経験者に一定期間リーダーをやってもらって話し合いをしたらどうか？
- 38人を7つや8つに分けると、一つが非常に小さなものになってしまう。おおまかに3つぐらいに分けて、その中でテーマにより小分科会にすればどうか。グループ(案)をもう少し分析して、おおまかな分科会に分けたらどうか。
- どういう問題・課題があるかを(みんなで)考えて、グループ編成をしていくとなると、相当時間がかかる。大枠で関心がある項目でグループを作り、その中で主たるテーマ・課題を議論しながら掘り下げていったらどうか。
- みなさん忙しいので、毎回毎回、全体で集まるのは難しい。今日、5つぐらいのテーマに分ける所まで決めた方が良さそう。決まったグループを変えてはいけないということではなく、大雑把なグループ分けをしておいて、初めての人達は分からないため、内容を知りたいと思っている。まずはグループ分けをしておいて、その中で話し合ってもらいやり方でいいのではないかな。
- 1期をやってみて、正直、2年間は非常に長いと感じた。最初からそんなに焦ってグループを決めなくても、全体会のような場、自己紹介やそれぞれの思いを聞きながら進めて、改めてどこかでグループを決めるというやり方がいいのではないかな。
- 38人全体で1つの所属として考える方法もあると思うが、自分が確信を持っているグループに身を置いた上で、こういう全体の場で協議すれば意見も深まるが、それをしないで先に全体で話しをしてしまうと、ただ言いたいことを言い合うだけの場になってしまう。ある程度所属を決めた上で、こういう場を作るのはいいと思う。
- 大きく分けて2つの意見に分かれる。この場である程度グループを決めた方が良さそうというグループと、もう一つは今日のような会議をあと何回か開催してグループ分けをするという考え方だと思う。
- 1分科会10人と考えると、4グループぐらいしかできない。グループ(案)の上の4つのグループに、人数が少ない下の方(に記載された)の人達が入って、決めたらどうか。途中でやはりグループが違ったとなったら、自由に移れるようにしたらどうか。
- 活性化をするためにはどのような分野が必要なのか？4グループぐらいという意見が出たが、例えば行革のグループ、観光・商業のグループ、安心安全のための防災のグループや医療のグループなど、そこまで決めておいて、次回集まってみなさんで具体的に検討したらどうか。それぐらいまででないと今日終われないと思う。

- いくつかのグループに分けるかではなく、分科会名を決めてほしい。そうしないとどこの分野の所に行っていいか分からない。例えば配布されたグループ（案）で言えば、行財政改革、まちづくり、観光といった大枠でグループを決めてもらって、自分がどこに行くか決めればよいのではないか。
- いろいろな思いを持って参加している方がいっぱいいると思うので、きっちりしたグループではなくて、大枠のグループを作っておいて、その中で話し合いをすればよい。
- お試し期間があつていいと思う。焦る必要はないと思う。話しを聞いていると、もう行くんだ！という人と、じっくりいく人と別れている。知識を持っている人は行きたいと思うけど、分からない方がいっぱいいるため、余裕を持ってやったらどうか。
- 第1回目もなかなか決まらなかった。何回か集まってようやく決まっていた。それでいいと思う。
- 全体会として何度も集まるのも大変だし、一応、グループ（案）を示してくれてあるので、これをもとに進めたらどうか。
- 自主的に決めてくれと言われても、初めて参加して分からないこともあるため、やはり事務局である程度決めてもらって、分科会という形で進めていくのがいいかなと思う。
- スムーズに進めて行くためには、やはり4つぐらいのグループに分けた方がいいと思う。
- やはりおおまかに4つ程度に分けてもらって、ある程度の段取りをしてもらわないと、どこに入って良いか分からない。おおまかに分けたグループの提案みたいなものがあると助かる。

委員全員が付箋紙にやってみたいことを記入してホワイトボードに張り出し、おおまかな仮グループを委員が決める進め方に決定し、各自希望するテーマを付箋に書き出した。

（決定事項）

- おおまかな4つの仮グループの決定。
 - ①行財政改革グループ
 - ②福祉・健康・教育・文化グループ
 - ③まちづくり・防災グループ
 - ④観光・商工グループ
- 4つのグループの仮名簿を作成して次回の会議で配布。
- 次回の全体会は4つのグループに分かれて協議。（グループの細分化等）
- グループ間を好きなように動いて自由に話し合いをしてもらう。
- 興味があれば2つのグループを掛け持ちでやってもらうことも可能とする。

（次回の日程について）

- ゴールデンウィーク前までには第2回目全体会を開催する。
- 4月上旬には開催通知を発送する。

以上

6 閉会